

第2回講座



2026年6月27日(土)13:30~14:45
文京キャンパス 882教室

人に訴えかける（オーケストラ） サウンドとは？

“ラスト15分では指揮についてもレクチャー予定”

曾我 大介／指揮者・作曲家

1993年ブザンソン国際指揮者コンクールで城之内ミサ氏と出会って以来、信頼関係を築く。城之内ミサ作曲「空華II」（大阪シンフォニカー交響楽団委嘱作品）では、国立パリ・オペラ座管弦楽団の演奏を指揮。

桐朋学園大学、ウィーン音楽大学などでB.ハイティンク、G.シノーポリ、I.ムーシン、U.ラーヨビッチ、小澤征爾、田中雅彦、I.ケプテア、森正の諸氏に学び、1989年ルーマニア国立音楽院(現音楽大学)在学中にルーマニアでデビュー。

ブザンソン、コンドラシンの二大指揮者コンクール優勝を始め、数多くのコンクールで上位入賞。以降日本はもとより、ヨーロッパ、南米を中心に世界各地のオーケストラに客演を重いている。ルーマニアとは特に関係が深く、ブカレストのジョルジュ・エネスク・フィル、ルーマニア国立放送響、ブラショフ・フィルなどに定期的に客演。2021年末にはモスクワ・クラシック・バレエ日本公演「くるみ割り人形」を指揮、的確な演奏で作品の魅力を存分に伝え高い評価を得た。2024年4月には日本、ドイツ、ルーマニア三国の共同プロジェクト、ベルリンフィルハーモニーホールにおける第九初演200周年記念公演を大成功に導いた。2025年9月には韓国・光州にて韓日国交正常化60周年記念友好演奏会を指揮。

ルーマニア国立放送響首席客演指揮者（2002-2003）、大阪シンフォニカー響（大阪響）音楽監督（2001-2004）、ブラジル・ロンドリーナ音楽祭首席指揮者などを歴任。東京ニューシティ管弦楽団（パシフィックフィルハーモニア東京）とは2005年から首席指揮者、首席客演指揮者、正指揮者として2022年3月まで実に17年にわたり信頼関係を築き、楽団の発展に大きな足跡を残した。

著書に『《第九》虎の巻』、『歌う人のための《第九》合唱譜』、『ベートーヴェンのトリセツ〜指揮者が読み解く天才のすごさ』、『おしえて!そがさん ここが知りたいクラシック100の謎』（音楽之友社）、『ベートーヴェン、21世紀のウィーンを歩く。』（集英社）。共著として『芸術を創る脳』（東大出版会）、デルタ・クラシックスより東京ニューシティ管弦楽団とのCDをリリース。ルーマニア・ブラショフ市とブラジル・ロンドリーナ市名誉市民。

世界各地の音楽祭出演や講習会の講師、コンクールの審査員、また近年は作曲家としても活躍し、その作品は海外を含め広く演奏されている。2025年はルーマニアでコントラバス協奏曲が初演された。

ルーマニアと武蔵野市の交流の端緒を開くなど日本とルーマニアとの相互理解の促進に尽力してきた長年の功績により、2021年8月に令和3年度外務大臣表彰を受賞。